

# 学校だより

令和4年1月発行  
金沢高等学校

新年あけましておめでとうございます。

昨年末には男子バスケットボール部が「ウインターカップ 2021」で初のベスト8進出を果たし、部活動の大きな飛躍への期待で夢が膨らむ正月を過ごすことができました。

さて、令和4年の干支は「壬寅」で、「新たなエネルギーが胎動する年」だそうです。新たな年を迎え、生徒たちがそれぞれの夢に向かって着実に歩み続けることを願っています。私たち教職員は、「夢の実現」に向けて、時に迷いながら、そして時には悩みながら歩いていく生徒たちに寄り添い、サポートしていきたいと考えています。

昨年は新型コロナウイルス感染状況が落ち着きを見せ始め、工夫しながら学校行事や各種大会が実施されることを喜んでいましたが、新しい変異株が広がりを見せ始め予断を許さない状況になっています。各ご家庭におかれましては、感染防止対策を緩めることなく徹底継続していただくことをお願いいたします。

令和4年は大きな変化の年となります。4月1日からは成年年齢が18歳となり、保護者の同意なく消費者契約を結ぶことが可能となる等、大人としての「自己責任の意識」が求められることとなります。学校としては、これまでと同様の対応（保護者の皆様に説明や相談をしながら進めていく）を考えていますが、ご家庭でも予め十分話し合ってくださいと大切かと思えます。

現在まで3年生の進路決定が順調であるとの報告を受け喜んでいますが、進路決定は終わりではなく、生徒たちの新たなスタートであると考えています。今後、入試本番を迎える生徒たちが力を出し切り、目標を達成することを願って止みません。

保護者の皆様には今年一年間よろしくお願いいたします。

校長 杉浦 外美夫

## 【受験に向けて】

1月から各大学・短大では令和4年度入試が実施されます。落ち着きを見せていた新型コロナウイルスも、変異株の感染や年明け以降の感染者増加など予断を許さない状況となり、緊張感が一気に高まってきました。受験生の皆さんには、感染対策および健康管理をしっかり行い、入試では日頃の成果を遺憾なく発揮してくれることを願っています。

さて、コロナ禍2年目を迎える大学入試ですが、昨年の全国的な入試の動向についてお知らせします。まず特徴の一つは『地元志向』でした。これは新型コロナウイルスがまん延していた都会を回避し地方大学の受験を選択した受験生が多かったことを意味します。さらに感染拡大の影響を受け、年内の推薦入試や総合型選抜入試で進路を確定させた受験生が多かったことも特徴です。このような地元志向や推薦志向は今年度も継続すると予想されています。

一方、大学入学共通テストは、導入2年目を迎えたことで難易度が上がり難化するというのが一般的な評価です。本校からはおよそ220名が受験する予定です。（3年在籍生徒の50%）

入試を控え、「良い結果を出さなくては！」という強要や自縛がかえって自分のパフォーマンスを下げることがあります。入試を考えると不安や緊張に襲

われる人もいるでしょうが、多少の緊張感は大いに実力を発揮するとも言います。これまで積み上げてきた努力を信じ、時には自分を認めて受験に臨んでもらいたいと思います。ぜひ頑張ってきてください。応援しています。

進学指導部主任 笠谷 清一郎

## 【主な大学の合格者数（12月末現在）】

### <国公立大学>

・筑波大学（茨城県）	1
・富山大学（富山県）	2
・広島大学（広島県）	1
・都留文科大学（山梨県）	1
・石川県立大学	3
・石川県立看護大学	1
・公立小松大学	3

### <県内の私立大学>

・金沢星稜大学	35	・金沢工業大学	33
・北陸大学	21	・金城大学	10
・金沢学院大学	8	・北陸学院大学	4
・金沢医科大学	3		



（裏面に続く）

## 【インフルエンザについて】

毎年、インフルエンザは年末から春先頃まで流行していました。しかし、昨年は新型コロナウイルス感染症のまん延により、マスクの着用や手洗い、ソーシャルディスタンスなど感染予防対策が徹底されたこともあり、インフルエンザの流行はみられませんでした。そのため、ウイルスへの接触がなくインフルエンザに対する免疫力が低下しているとも言われており注意が必要です。

インフルエンザの予防には手洗いや換気、予防接種などがあります。インフルエンザワクチンを接種することにより感染しても発症しにくいことや重症化を予防することができます。特に3年生はこれから大学受験も控えています。今後もしっかり予防対策を行い、体調管理に注意しましょう。

保健室（養護教諭） 林 暁子

